

# さっぽろ(子育て・教育)市民フェスタ2016にご参加を!

今年で、14年目となる教育フェスタ。今年も子育てや教育に関わる多くの市民が協力し合って実行委員会をつくり、開催することができました。午前の部では、北九州市を中心に長年ホームレス支援に関わってきた牧師の奥田知志さんの講演があります。奥田さんの活動は、NHKプロフェッショナル「仕事の流儀」などでも紹介されています。SEALDs 奥田愛基さんの父親としての「子育て」のお話も聞けるのではないかと楽しみにしています。是非、ご参加ください。

さっぽろ<子育て・教育>市民フェスティバル 2016

2016年  
10月10日(月・祝)  
9時45分～16時30分  
(受付開始9時30分)

会場 札幌市男女共同参画センター  
(札幌市北区南八条5丁目札幌エスパラ3階)

講演会 9:45～12:00 ホール(3階)

『助けてといえる社会へ』  
奥田 知志 さん

『笑顔輝く子どもと大人の未来』

『あそびの広場』

『あそびの広場』

『あそびの広場』

『あそびの広場』

『あそびの広場』

『あそびの広場』

『あそびの広場』

『あそびの広場』

『あそびの広場』

『あそびの広場』

『あそびの広場』

『あそびの広場』

『あそびの広場』

『あそびの広場』

『あそびの広場』

『あそびの広場』

『あそびの広場』

『あそびの広場』

『あそびの広場』

『あそびの広場』

『あそびの広場』

『あそびの広場』

『あそびの広場』

『あそびの広場』

『あそびの広場』

『あそびの広場』

『あそびの広場』

『あそびの広場』

『あそびの広場』

『あそびの広場』

『あそびの広場』

『あそびの広場』

『あそびの広場』

# はばたき

道高教組札幌支部  
(札幌市中央区大通西12丁目  
北海道高等学校教職員センター  
3階)  
TEL 011-271-5875  
FAX 011-271-5895

人事院勧告・道人事委員会交渉  
いよいよ道教委賃金確定交渉へ

8月8日、人事院は、政府と国会に対して国家公務員の給与に関する勧告を行いました。その主な内容は、次の通りです。

- ① 賃金に関する部分については、①月例給は、初任給を1,500円、若年層は同程度、それ以外(再任用も含めて)は4,000円を基本に引上げる。
- ② ポーナスは、現在の4,200円(北海道は現在4,100円)を0.1月上げて4,300円とする。引上げ分は勤勉手当に配分する。
- ③ 配偶者に係る扶養手当額を6,500円(現行13,000円)に減額し、減額した原資を用いて子に係る手当額を10,000円とする。
- ④ 再任用職員の勤勉手当「優秀」の成績率を「良好」より上げる。

## 「教育全国署名」街頭宣伝行動行っ

少人数学級・給付型奨学金制度などを求めて



署名に応じてくれた方々か

道人事委員会交渉を行う  
9/12・9/27  
2回にわたって

「ゆきとごいた教育をすすめる石狩・札幌連絡会」は、9月24日13時から三越デパート前で、8月27日に続き今年度2回目の街頭宣伝署名行動にとりくみました(9月10日にも計画されていましたが、雨のため中止となっていました)。参加者は14人、45分間のとりくみで100筆を越える署名を集めることができました。

署名に応じてくれた方々か

『あそびの広場』でたのしみ  
おもしろ科学教室  
おどな子どもも一緒にあそぼう

1. ヘビ・ヒヨクはなぜ動く(ヘビに話してみよう)
2. 葉巻を折ろう・ろくろを回そう
3. 3Dメガネで立体動物を見よう
4. パチパチパチ
5. 懐光鏡でピニールをのぞいてみよう
6. コアコップでココロコ
7. 葉巻鏡をのぞいてみよう～七色に光る石ころ

13:00～15:45 大講堂・中講堂(4階)  
16:00～16:30 中講堂(4階)

小学生に大人気の「あそびの広場」  
毎年100名ほどの子どもたちが参加しています。  
小さな子どもから大人まで本気に楽しめる企画満載です。  
子どもさんと一緒に楽しいひとときを過ごすのもいいのではな  
いでしょうか。  
午後1時から3時30まで行っ  
てます。

「ご参加を！」

政治的教養の教育  
本当に大事なことを見失わない

つがやき

中立を求めている安倍自民党は、7月に「子どもたちを戦場に送らない」と主張し中立を逸脱した教育を行う先生たちがいるとして、「偏向教育」を密告するフォームまで作成しました。まさに自分たちの主張こそが絶対的でなければならぬと考えているようです。そして、それこそが中立な主張なのだと思えているように思えます。18歳選挙権で高校生に副教材を配布しながら、教員には強烈に政治的な中立性を求めるこの動きには怒りさえ感じます。このままでは…と焦る気持ちも沸き起こります。

しかし、まず我々は指導要領やシラバス、進学実績の向上に縛られて、子どもたちに伝えるべき本筋に大事なことを見失ってはいないか、足元を見つめなおす必要があるのではないのでしょうか。

そこから、今を戦前のような第一歩が踏み出せるように思います。

(T・D)

国の人事院勧告以降、道高教組・公務共闘地公連絡会は、道人事委員会に対して、「賃金の大幅引き上げ」、昨年度国より0.1月低かった一時金の月数を「国並み」にすること、「配偶者手当の『見直し』」ではなく扶養手当の「改善」「再任用者の賃金・一時金の改善・希望者全員の再任用」「両立支援に関して必要な人が必要時に使える内容と環境整備」「超勤解消」などを求め、職場からの署名のとりくみなど運動を進めてきました。

そして、9月12日と27日に道人事委員会交渉を行い、541筆の署名を提出するとともに、我々の労働基本権制約の代償機関としての役割を果たすよう強く求めました。

道人事委員会勧告は、10月上旬に予定されていますが、勧告後、いよいよ道教委との秋の賃金交渉に向けたたたかいが始まります。

すべての職場から「賃金労働条件改善」のための署名や職場決議、交渉団の組織などにとりくみましょう。

すべての教職員の皆さん、たたかいを大きく広げるためにも、毎年行っている「(冬季)闘争カンパ」にもご協力ください。

いつも行っている大通公園から三越前で今回行いましたが、人通りも多くそして署名に応じてくれる人が多かったように感じました。

「教育全国署名」のとりくみは、11月末まで行われます。昨年、全国では約900万筆集められ国会に届けられています。今年も大きな運動にしていきましょう。

各職場の後教職をお願いします。一人ひとりの声を、国と道に届けましょう。

# 札幌支部教育研究集会NO.101を開催

9月4日「札幌支部教研2016」が行われました。第1部全体会では、最初は「青年ユニオン」に所属している20歳の方からの話でした。その内容は、①いま若者たちがおかれている現状との中で、個人として

## 第一部 記念講演ダイジェスト

### 「教え子たちが生きる世界」

講師 北海学園大学教授 川村 雅則 さん



いずれは就職する若者たちに何が必要とされているのか、学校に何ができるのか。本日は、学生の生活や就職の実態報告を通じて、彼らに対する支援の在り方について考えていきたい。

### 「学生生活実態調査より」

昨年度に北海学園大学で行った「学生生活実態調査」では、学業面だけでなく、彼らが多くの時間を過ごしているアルバイト生活や学費負担、経済的な条件などを尋ねた。同調査でアルバイトの実態を見ると、7割の学生が恒常的なアルバイトに就いており、単発バイトや過去のバイトを含めると9割(91.5%)がアルバイト経験者である。勤務時間をみると、週15時間以上働いているものがバイト経験者の約7割(67%)に達している。アルバイト生の多くが年間40単位修得に必要な

たいことなど、「普段聞けない若い人の話は参考にあった」(参加者の感想から)お話をした。第1部後半は、北海学園大学川村さんによる記念講演でした。そのダイジェストをここで紹介します。

講義の時間を上回って働いている現実が浮かび上がってきた。

一方、学生の学びを支える「奨学金」制度については、同調査によるとおよそ半分(46%)が学生支援機構の奨学金の貸与を受けていて、そのうちの2割以上(20%)が10万円以上の給付を受けている。奨学生の88.3%が返済を「非常に不安」「多少不安」と答えている。結局、不安を抱えながらも奨学金に頼らざるを得ない生活実態がそこにはある。

こうした生活実態のため、前述のアルバイト生の14%が「生活費」、9.5%が「学費」「就活費用」をアルバイトで得た収入の1番の使い道と答えている。

### 「教え子たちの仕事の世界はどうか？」

それでは、そうした苦労を経た入っていく「仕事の世界」はどうか。就職状況は果たして改善されたのだろうか。身近なケースでいえば、総合職でも準職員で1年契約だったり、正規採用されたが入札に翻弄される不安定な雇用であったり、あるいは、派遣会社の社員で働き始めた学生の顔などがパッと思い浮かぶ。うって休職したなど労働相談を受けることもある。ただ、こうしたつながりがあるのはまだ良い方で、多くはない。

### 「教え子・生徒にどう関わるか」

このように過酷な労働現場に投げ出される教え子たちに対し、労働法や労働者の基本的な権利を教えることが、今日の大きな課題となっている。

厚労省もそのあたりは問題意識を共有しており、ワークルールの普及活動など取り組みを進めている。ただ、一方で、「労働法を教える」だけではないのか? という疑問が私自身にはある。というのは、労働法を使って問題に対処しなさい、というのには、「強い個人」を前提としているように思えるからだ。働く者一人一人は弱い、職場の問題に一人対峙するのは困難である、というリアルな現実をふまれば、「労働組合」まできちんと教える必要性を考えざるを得ないか。

固定残業や長時間労働に悩み、札幌地域労組という地域の労働組合にたどり着き、問題を解決した、その中心メンバーである橋本さんと道内の高校で講座を開いたことがあった。彼も、「高校でこのように労働法や組

## 「原水爆禁止2016年世界大会」に参加して

札幌東陵高校 伊藤麻古斗



「核兵器のない平和で公正な世界のために」をテーマに8月4日から6日まで、広島で「原水爆禁止2016年世界大会」が開催されました。広島大会には約5500人が参加し、大きな成功を収めました。

私は北海道代表団の一員として、高教組札幌支部から派遣され、参加しました。

8月3日、総勢107名の北海道代表団が新千歳空港に集合。羽田で乗継ぎ、一路広島へ。

8月4日、世界大会会場となる県立総合体育館の一室で北海道代表団の結団式が行われました。各ブロックの挨拶や決意など、総会

は、生徒たちに対し、離職とは違う生き方を、リアリティを持って示すものだった、と感じている。もっとも、高校現場からは、「労働組合を授業で扱うのは難しい」などよく聞く。高校は

に向けての意気込みが述べられ、参加者に多くの高校生がいて、その中でも白石・厚別ブロック代表として、女子高校生が堂々と核兵器廃絶を訴えたのに対して、代表団から大きな拍手が起こったのには感銘を受けました。また、被爆者の大越和郎さんの被爆体験が語られ「非人道的な核兵器は禁止・廃絶しありません。被爆者が生きていくうちに、必ず達成したいと思います。」という言葉が胸を打ちました。

グリーンアリーナでの「世界大会広島開会総会」では全国のみならず海外からも26カ国89名(30各団体、2国際、地域団体のNGO代表・個人および政府・国際機関代表7名)の多数の参加者があり、その中で力強い「核兵器廃絶」の訴えが続きました。

一番残念だったのは、広島市長の「世界大会へのメッセージ」が、代読という形で行われたこと。是非、市長には大会に参加して、自分の声で読み上げてもらいたかった。

そこまで締め付けがひどくなっているのかと驚いてしまう。しかしながら、憲法や労働法がなぜ「動く側」に根柢を履かせているか」という根本から考えて、授業実践に取り組んで欲しいと思う。

8月5日、参加者は、フォーラム・分科会・動く分科会など18の会場に分かれて、学び、討論、交流などを深めました。私は第7分会「核兵器と原発」に参加しました。原発の現状と今後について考える機会としたかったので、核兵器は当然ながら、原発も廃絶するべきだという考えを私は持っています。福島を例をみても、一度事故が起こると、そのツケを長期に渡って子孫に残すという現実があります。もう二度と事故は起こしてはいけないという思いです。

会場は広島市社会福祉センター2Fホール。会場は立ち見の参加者も出るほどの大盛況。先ず、四国電力伊方原発運転差止広島裁判の原告団長、堀江 壮氏から経過と報告がなされました。

政府は、東京電力福島第一原発事故を踏まえて策定された原子力規制委員会の新基準に適合した、ということ、伊方原発を再稼働させたいという考えだが、伊方原発近くには長大な活断層「中央構造線断層帯」が通り、熊本地震を

あわせて最後に一つ申し上げたいのは、私達教職員組合自体が果たして魅力ある組織になっているか、共感を得られる取り組みをしているかどうかということだ。例えば、社会問題化して久し

機に活発化する懸念や事故時の避難計画の実効性に不安がある。事故が起きると四国のみならず中国地方が壊滅する危険があり、是非とも運転差止裁判を応援してください。と、必死に訴えていました。

しかし、残念ながらその一週間後の8月12日に伊方3号機は再稼働。プルトニウム・ウラン混合酸化物(MOX)燃料によるプルサーマル発電を行う国内唯一の原発となつてしまいました。

次に、海外からリトアニアのゲティミナス・リムディカ氏とロシアのオレグ・ポドロフ氏によるテロノブイリ原発事故後の報告と訴え。福島からの報告、さらに参加者からの発言と続きました。

興味深かった発言をいくつか紹介します。「原発は電気を作るために開発されたのではない」「外部被曝よりも内部被曝のほうが怖い」「六ヶ所村問題は、トイシ無きマンションと呼ばれている」「原発とリアモーターカーには密接な関係がある」「原発を無くさないのはいつでも核兵器に転用できるから」「トリウム融炉型原発は核兵器を作れない原発だが、日本は作ろうとしない」

など、あまり報道では耳にしないことばかりで、大変勉強になりました。

8月6日、71年前に広島に原爆が投下されたのと同じ日。私は一人、閉会総会に先立ち、「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和記念式」に参列しました。黙祷・平和の鐘に続き、広島市長の平和宣言、内閣総理大臣の挨拶、最後に「ひろしま平和の歌(合唱)」で閉式。厳かな中で整然と挙行されました。二度と起こしてはならない原爆の悲劇。無くなった方や生き残ってもなお、様々な苦しみの中にいる被爆者の方々に思いを馳せて、祈りました。

その後、世界大会閉会総会へ参加。核兵器全面禁止に向けて、国内外の運動の決意が、満場の参加者賛同のもと成功裏に閉会しました。今回参加して、あらためて思ったことは核兵器のない世界の実現に向けた取り組み、特に若い人に核兵器の悲惨さを語り継いでいくということ。決して風化させたいいけないという思いを強く抱いた世界大会でした。